

片山 美智恵

旧姓 松尾

黒山 3期

元大阪府職員



「高野街道の今昔」チーム

過去に思いをはせ、未来に託す

今から77年前、太平洋戦争の末期、私は大阪府立黒山高等女学校に入学しました。12才の春です。当時の学校は、舟渡池(現在の堺市美原区)の水面に陰を落とす瀟洒な木造建築でした。その姿が大好きでした。

その頃、米軍は日本の各地に焼夷弾を降らせていました。ある日の昼下がり、友だちと2人で帰宅の途上、急に米軍機が低空飛行してきました。その矢先、機上掃射が始まり、弾丸が跳ねるように走りました。幸い、舟渡池の中央の通路には、立派なすすきの群生があり、急いでその中に姿を隠し命拾いました。泣きながら家にたどりついた苦い思い出があります。親たちは子どもの通学を心配して、みんな地元の女学校に入学させました。大阪市内からの疎開組も多く、生徒数は非常に多かった時代です。この年の8月、日本は敗戦を迎えました。

それからが激動の時代になりました。経済は壊滅状態。食糧不足が深刻。交通事情も悪く、すし詰め乗車。やっと平和な時代がやってきたと思う歓びと、この先一体どうなるのという不安感が交錯していました。

昭和22年(1947年)9月、6・3・3・4制が実施。翌23年(1948年)4月。新制の大阪府立黒山高等学校が発足し、第3期生となりました。その後の3年間は民主化教育のもとで、新しい空気を胸いっぱい吸い込み、学習・クラブ活動・自治会活動と前を向いてひた向きに頑張った時代です。今にして思えば、この3年間の仲間とともに迷ったり、悩んだりしながら得たさまざまな経験は、10代としては最高すぎる貴重なものでした。

学習では、夏休みに、大阪大学と大阪市立大学で高校生を対象とした講座が開かれ参加しました。大学生が企画した自主講座でしたが、当時、中之島にあった阪大の理学部で植物細胞の浸透圧の話を顕微鏡で観察しながら、研究者から学んだ記憶がよみがえります。大阪市立大学では、物の見方、考え方の基礎としての「唯物論と観念論」等、森信成先生等から次元の高い講義を聞きました。この時、いずれかの学校に進学したいと思ったのです。

クラブ活動も活発化し、スポーツ系、文科系ともに増え、天文・社研もあり、校内での研究発表会も行われました。物理の先生から熱心な入部勧誘を受け、「明石市にある子午線と黒高との緯度差」を測定するチームに入りました。校庭に観測定点をつくり観察する一方、明石へも度々足を運びました。この記録をまとめ、府下の高校理科研究会で発表しました。思わぬ会心のできだったのか、発表は身に余る講評を受け、先生や仲間と歡びあったことは忘れられない思い出です。

民主教育を促進する気運の中で、自治会活動も活発に行われました。府下の高等学校には自治会連絡会ができ、交流が盛んに行われ参加しました。

1949年(S24)の秋、レッドパーズが行われ、本校でも敬愛する2人の先生が職場を追われました。体育祭のさ中、生徒自治会では反対決議をし、一生懸命に留任運動を展開しました。忘れることのできない思い出です。

学校がやっと落ちついた 1951 年(S26)3月。無事、卒業し希望の大学に入学できました。母校はその後、北野田の丘陵地に新校舎ができ、登美丘高校になりました。学んだことのない校舎。思い出もない校舎。母校は私からずっと遠のいていたことは確かです。

先日、テレビを観ていたところ、ダンス日本一決定戦、日本トップクラスの強豪との紹介で登美丘高校生の洗練されたダンスをみて驚きました。なんと、クラブ活動で全国の頂点に立っていたのです。

今には今のよさがありました。やればできる。在校生の方々は、自信を持って 100 年の歴史に恥じないよう歩んでほしいと思います。

最後に、100 年先を思い、あせらず人を育て実力を育む、そんな母校であってほしいと思います。歴史をつないできた歴代の校長先生、教職員、保護者、生徒、すべての関係者に敬意を払い、今後のご発展を祈ります。

■プロフィール

1951 年 大阪府立黒山高等学校卒業

同 年 大阪市立大学入学、卒業後、大阪府において農林部で生活改善普及事業、生活環境部で消費者行政、物価行政に携わる。

1987 年 大阪府立消費生活センター所長

1990 年 大阪府を定年退職

(主な公職等)

- ・大阪市立大学 生活科学部 非常勤講師、大阪府立看護大学 非常勤講師 ・大阪府農業大学校 講師
- ・通産産業省 訪問販売苦情処理マニュアル作成委員 ・国民生活センター 消費生活専門相談員養成講座講師
- ・大阪府消費者教育支援研究会会長 教師用消費者教育資料集「いきいき消費者教育」作成

(研究分野)

- ・「イギリスの地方消費者行政」、「イギリス特有の若者への消費者啓発」